



オーストラリア直送レポート

Vol.4

2016.8.10 いざ、初めての校外研修へ！【DS】

現地中学生との初交流【PS】

●ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課：林
引率教諭：吉備中学校 西岡

●パーマストーン校・ローズベリー校グループ／教育委員会社会教育課：宮地
引率教諭：白馬中学校 熊ノ郷

【DS】登校3日目。研修生に事前に、今日は朝から校外研修に行くこと伝えていたこともあり、研修生達はその事の話で持ちきりでした。今日の郊外研修には、DS校のホストの生徒も同行してくれました。いざ、DS校に移動用のバスが到着すると、研修生はカメラ片手に乗り込んで行きました。オーストラリアの法律では、シートベルトをしていない場合は、運転者でなく未着用者の責任になるそうです。こんなところにも、文化の違いを感じます。

バスの中で、研修生は楽しそうに談笑していました。バスに揺られて、約30分で本日の最初の目的地「FISH FEEDING」に到着しました。FISH FEEDINGは、魚のすぐ近くでエサやりができる場所です。研修生は、日本では見ることでできない魚に興味しながら、エサやりをしていました。また、DS校の引率教諭に魚の事を質問している研修生もいました。ここで、研修生がオーストラリアの学校文化に早くも順応している場面がありました。それは、到着して一時間が経過した頃でした。研修生からお腹がすいたとの声がありました。確かに、この時間帯は、リセスの時間であり、普段なら軽食をとる時間です。

研修生は、3日目にして現地のリズムになってきているようです。FISH FEEDINGの次は「Land Sea Adventure」です。ここでは通称ダックボート（水陸両用車）に乗りこみ、近くの海岸から海のお散歩をします。ダックボート（水陸両用車）のイメージが中々持てないようで、到着するまで研修生それぞれが自分の思うイメージを話していました。ダックボート（水陸両用車）が到着すると研修生の興奮も最高潮に。乗客が、研修生DS校のホストだけだった事、初めて船に乗る子もいたので、海に入る瞬間は様々な声が上がっていました。そして、海の散歩が始まると、クロコダイルの頭蓋骨の、剥製を研修生に持たせてくれたり、説明をしてくれました。また、船長の証である帽子をかぶらせてもらい、ダックボートを運転をさせてもらいました。約一時間の海の散歩中、ダックボート（水陸両用車）の揺れと海風の気持ちよさかウトウトしている研修生も見受けられました。

昼食は「Darwin Museum」に隣接している公園で、DS校が用意してくれたサンドウィッチとクッキーを研修生は、美味しそうに食べていました。午後からは、「Darwin Museum」に行きました。Darwin Museumは、アボリジニの歴史、生活、芸術・オーストラリアに生息する動物の標本・ダーウィン市を襲ったサイクロン等、多種多様の展示物があります。研修生それぞれの興味に合わせて、見学したり写真を撮っていました。風刺画の展示コーナーでは、英語の説明書きの内容が分からなくても、それぞれの感性で作品を理解してようでした。展示コーナーでDS校のホストが一生懸命に研修生に説明し、研修生が分からない英語で話している場面がありました。お互いの言葉や考え方、習慣を理解しあう事の大切さを研修生から感じました。研修生は今、オーストラリアの言語・文化・習慣を感じる事の出来るこの環境を大事にして欲しいです。(林)

今日は校外研修でした。まず最初に海の魚に餌をあげるところ(FISH FEEDING)に行きました。日本ではなかなか見られない魚に餌(パン)をあげたり、話したことを繰り返すインコと触れ合い、研修生みんな楽しめている様子でした。次は船に乗り、ダーウィンの海を周遊(Land Sea Adventure)しました。研修生の多くが船長の帽子をかぶらせていただき、実際に船を運転させてもらいました。そして最後に、美術館(Darwin Museum)に行きました。芸術的なたくさんの絵画や風刺画、ダーウィンの歴史にまつわる写真などを見ることができました。また現地住民(アボリジニ)が実際に使っていた船や道具などの歴史も学ぶことができました。

今日の校外研修はすべて日本では絶対に経験できない内容でした。研修生にとってはとても貴重な経験になったと思います。ここで学んだこと、感じたことを忘れずに日本に持ち帰り、これからの生活に生かして欲しいと思います。今日は校外研修であったのもあり、ドリップストーン校の生徒と交流を深めるというよりも、研修生同士の仲を深めることができた日になりました。明日も校外研修の予定です。吉備中生、Keep it up! (西岡)

【PS】今日は、ローズマリーミドルスクールへの初登校。パーマストーンシニアカレッジとは違い、同じ中学生たちとの交流に期待に胸を膨らませてる研修生達が今日も全員集合しました。全員集まるとすぐに体育館へ案内されて全校生徒の前で1 minutes speech をさせてもらいました。一人終わるごとに歓声を上げ、拍手をしてくれていました。スピーチにも慣れてきた様子でした。

2限目の英語のクラスは、日本の研修生達が参加しやすいようにと、美術のような授業に切り替えてくれました。さまざまな模様を作り、それを動物絵に重ねていく作業でした。ある研修生が鯉の絵に模様をつけていると、現地の先生や生徒から「ラッキーフィッシュ？」と質問されていました。日本庭園には観賞用の鯉があることから、日本ではそう考えられていると認識されているようでした。

3限目は自由に生活スキルを身に着けるためのクラスに参加しました。現地の生徒とチェスをしたり、ウノをしたり、コンピューターを操作したりと楽しく過ごしました。

4限目は、インドネシア語クラスと体育クラスを2班に分かれて交互に参加しました。イ

インドネシア語は今まで触れたことのない言語ですが、数字の教え方について熱心に受講していました。体育ではバスケットボールをしました。体格に大きな差があり、大人と子供がプレーしているような様子でしたが、笑顔でプレーしている姿にスポーツはコミュニケーションをとるツールとしてはとても有効なものだと感じました。

午後は日本語クラスで、自己紹介（簡単な日本語）をし、かぐや姫の劇をしました。日本とは違う環境に疲れが出てきたのか、一部の生徒は声が小さく元気がないように感じました。ホストファミリーともしっかりコミュニケーションをとって疲れを癒し、もう一度初心に戻って意欲を取り戻してもらいたいです。明日はジャンピングクロコダイルを見に校外研修です。リフレッシュのいいきっかけになることと思います（宮地）

初めてのローズベリー中学校では、最初ちょっと緊張していましたが、すぐに慣れていきました。パーマストーン校のリセスでは、こちらから「一緒にスポーツをしておいで」と言わないと行動できませんでしたが、今日は「一緒に遊びに行っている？」と、自分達から聞きに来るようになりました。ローズベリー校の生徒は、とても積極的でどんどん話しかけてくれるので、そのことが子供達にもいい影響となっているのでしょうか。今日、すべての授業に一人の女の子がずっと一緒について来てくれました。「授業は大丈夫？」と聞くと、「ちゃんと自分のすべきことをしているから休んでいても大丈夫」と答えてくれました。彼女はただついて来ているだけではなく、次の授業の場所に、開始時間に間に合うようにきちんと私達を案内してくれるのはもちろんのこと、「(うちの生徒達が)トイレに行かなくてもいい?」「(授業中)あの子、困っていない?助けましょうか?」と私に聞くなど、臨機応変に対応してくれました。そんな彼女の姿を見ながら感じたのは、もし、ここに来ている日本の生徒達が、次は日本で彼女のように行動出来るのだろうか?目的を達成するために、刻々と変わる状況を分析し、自分で次の行動を決めていけるのだろうか?ということでした。今の子供達には、まだ難しいように思いますが、この研修が終わる頃、彼女のように行動できる生徒になってほしいなあと思います。（熊ノ郷）

（写真は次ページに掲載しています。）

